

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073200158		
法人名	(株)データベース		
事業所名	グループホーム我楽	ユニット名	
所在地	福岡県大野城市乙金台1丁目11番31号		
自己評価作成日	平成29年1月4日	評価結果市町村受理日	平成29年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年1月20日	評価確定日	平成29年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>規則のないのが規則(個人の生活を重視する) 家庭と同じ生活を楽しんで頂く 地域との連携に積極的に取り組んでいる</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>大野城市乙金台の住宅地にある「グループホーム我楽」は開設から17年を迎える。開設者(前代表)の自宅を改装したホームであり、果物や野菜が育つ庭があり、玄関までのアプローチや民家の趣きが残る各居室等は心が安らぎ、懐かしさを感じることもできる。ホーム内は段差を解消し、車椅子の移動もでき、スプリンクラーや各居室の排煙口等も設置し、安全対策も継続している。入居が長い方々も多く、人生をホームで歩む中で心身状況も変化し、終末期を過ごされている方もおられる。「最期までホームで」と希望される方ばかりで、家族と一緒に「今の生き方、過ごし方、夢」等の話し合いを続けている。ベッド上での生活が増えてきている中、雪の日は縁側にお連れし、職員が雪を洗面器に入れて、ご本人に雪を触って頂いたり、「今を楽しむ」事を大切に、家族と専門の旅行者と馴染みの離島を訪問された方もおられる。今後も日々実践されているケア・看護をアセスメントと計画に盛り込み、家族と共有していく予定である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、全員で理念の唱和を行い、実践に繋げている 玄関にも施設理念を掲示している	「その人らしさを尊重し共感します。安心感を与え、楽しく優しく笑顔で接します。ご家族等との交流を持ち、地域の行事活動に参加します」という理念を大切にされている。職員は常に優しく接しており、職員の声かけにアイコンタクトで思いを伝えて下さる方もおられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、草むしり、行事参加し、交流を心がけている	清掃活動等に職員が参加している。地域の方から無農薬野菜を頂いたり、ホームの畑も手伝って下さり、民生委員の方も地域の方を連れてきて下さった。地域の夏祭りや踊りに楽しめたり、かき氷を食べる事もでき、区長が笹の葉を持ってきて下さり、七夕飾りを楽しむ事もできた。	住宅地にある事から「グループホーム我楽」の存在をご存じない方も多いとの事。今後も引き続き、ホームの取り組み内容の発信方法を検討すると共に、「子供110番の家」に登録する等の活動を行っていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の区長、民生委員、地域包括支援センターの方や市職員の方と情報・意見交換を行うことが出来る		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員の方や区長、民生委員から施設への入居希望等の情報収集・協力がもたえられる内容を職員の申し送りや書面で伝え、地域や行政からの連絡・報告事項を職員に理解してもらおうと同時に改善に繋がる事項がないか検討している	行事報告や職員の研修受講報告、事故報告等を行い、参加者から意見を頂いている。地域の方々から地域行事(夏祭り、音楽サロン等)の声かけをして頂き、入居者の体調などに配慮しながら参加させて頂いた。今後も議題に応じた参加者の検討を行う予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が、協力関係を築く主な場になっている	運営推進会議で市の担当者や地域包括の方からアドバイスを頂き、入居希望者の紹介をして頂いている。ホームの存在を知って頂くために地域の施設の集い等も紹介して頂き、ホームの取り組みを紹介させて頂いた。介護相談員の方も来て下さり、アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、事業所内で勉強会を行い理解を深め、常に身体拘束にならないか、職員一人一人が考え、話し合い、取り組んでいる	厚労省の「身体拘束ゼロの手引き」を全職員で勉強している。転倒、誤嚥予防等のマニュアルも作られ、日々のケアで実践しており、事故(ヒヤリハット)も少ない。帰宅願望が見られた時は音楽を一緒に聞いたり、気分転換をしている、優しい職員ばかりで、日々尊厳あるケアを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会福祉協議会が行う高齢者虐待防止と権利擁護研修等へ参加し、伝達研修を行って実践している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の支援を必要としている該当者がいない為、活用できていないが、成年後見制度については勉強会を行う予定	ホーム内にパンフレットを準備している。入居時に制度の説明を行い、入居後も制度利用の必要性を社長が確認している。家族から相談を受けた場合や制度が必要な方には、成年後見制度の専門法人を紹介できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず、管理者・看護師も含め、入居者様の状況確認等を行い、施設の種類や違いなど十分な説明を行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や介護相談員やポスターを掲示し、意見や相談をし易いようにしている	意思疎通が難しい入居者も多く、家族との情報交換を続けている。家族の面会時や電話で健康状態を報告し、要望を伺っている。家族交流会では楽しい食事会も行い、家族同士の交流は深まっており、職員の子ども達も一緒に楽しまれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が施設へ出向き、職員の意見等を聞けるようにしている	職員の意見を大切にしている。各行事内容も詳細に検討し、入居者の心身状況に応じた参加方法を検討している。主任が職員からの相談に応じ、内容によって社長や専務に相談し、適宜アドバイスを頂いている。職員同士の支え合いも多く、信頼関係も強くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と話をしたり、仕事ぶりで確認し、職場環境や条件の整備に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたり、性別・年齢による差別をしない、個々の能力が発揮出来るよう、職員と一緒に新人の育成に努めている	社長や主任が面接を行い、資格の有無を問わず、“やる気”“体力”“優しさ”等を面接で確認している。自立している方が入居しているグループホームと思っている方もおられ、ホームの現状や気遣いの大切さを伝えている。看護師と介護職が連携しており、研修の機会も増やしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会福祉協議会等が行う、人権擁護研修等に参加し、勉強会を実施している	社長は「意思疎通が難しい方が多く、以前、ご本人が会話ができる時に言われていた事などを家族から確認するように」職員に伝えている。入居者の体調を丁寧に観察すると共に、ゆっくり質問し、ご本人が意思決定できるよう職員全員で努力している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会参加後、職員で勉強会を行い、スキルアップしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会参加時に、管理職や職員が他施設職員との交流を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に介護責任者・ケアマネジャー・看護師により、本人様からの情報を収集し、サービスの基本にしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様に家族からの情報収集と要望などを確認し、サービスに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に入居者様が使用されていた物を用意して頂き、なるべく自宅に近い環境を作ると共に、緊急時に対応できる医療施設も紹介している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の食事の献立の相談をしたり、アイデアをもらう		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況報告をしたり、電話連絡をし、要望やお互い困っている事を報告し合い、ご本人にとってどうすれば一番良いかを話し合っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が、本人が一番好きだった場所に連れて行きたいと希望され、介護に必要な事項を説明し、安全に行けるように支援した	手紙や年賀状が来た時は、職員が読んで差し上げたり、お祭りで馴染みの民生委員と交流されている。以前住んでおられた離島に飛行機で訪問できた方もおられ、医師の紹介で専門の旅行会社を教えてください、職員も日々のケア内容の詳細記録をお渡しし、夢を叶える事ができた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事の時は、意思疎通が難しい重度の方も体調をみて参加して頂き、雰囲気味わって頂けるよう支援し、体調に合わせてリビングに出て頂き、スタッフが会話の間を取り持つ支援をしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの入居者様が死去による退去となる為、契約終了後に関わりを必要とするケースは少ない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと話す機会を持ったり、困難な方の場合は表情・目の動きから気持ちを読み取ったり、本人が望んでいないことを把握できるよう努力している	意思表示が難しい方が多く、職員は優しく声をかけている。表情や行動から思いを推察し、職員間で共有すると共に、ご本人が心地よく過ごせるように最善の配慮を続けている。ご本人の家族への思い(ありがとう)が聞かれた時は、家族にも報告している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者様の生活歴や既往歴等、家族から聞き、職員全員が把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の状態を細かく記録し、申し送りの時間に報告し、職員全員が把握するようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者を中心に日々のケアの中での気づきや現状を受けて検討し、介護計画を立てている	入居時はセンター方式を活用し、生活歴や要望などを記録している。医師からのアドバイスも頂き、医療面やケア内容と共に、天候の良い時は車いすで廊下から外の花を見て頂いた。食事等も「自分で口元まで運ぶ」等の目標を設定し、課題整理総括表も活用している。	詳細な個別ケアが行われており、日々の実施記録及び評価も継続している。今後は更にアセスメント用紙の在り方を検討すると共に、日課表も活用しながら、24時間実施しているケア内容(留意点)を追記していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過やケアの実践結果、バイタルチェックや気づいた事等、毎日個別に記録し、職員全員で把握しながら介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージを強く希望された家族に対し、訪問医との連携を取り、実施出来るよう努め、マッサージ施行日の介助も行い支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の体調をみて可能な限り、地域の行事に参加して頂き、介護相談員の方が月1回来設して頂いている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所では、家族の了承を得て訪問診療を行っているが、家族が希望すれば他の医療機関への受診も支援し、協力医療機関の医師には入居者の状態について、家族へ直接連絡をしてもらっている	看護師が2人勤務している。他の職員と協力して日々の観察も丁寧に行われ、往診時に主治医と情報交換し、適宜アドバイスを頂いている。歯科医師の往診もあり、誤嚥性肺炎等の予防に繋げている。診察結果は家族と共有し、緊急性が無ければ面会時に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理・介護を介護職と看護職が一緒に行い、介護職が看護職に相談する事も多く、受診タイミングを逃す事がないよう、看護師が入居者の状態を協力医へ報告し指示を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中に職員が交代でお見舞いに行き、早期退院に向けて病院関係者・家族と情報交換・相談をしながら関係作りを行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、医師より家族への説明と共に、介護職員を含め話し合いをし、家族の意向に沿って支援を行う	全員の方がホームでの看取りを希望されている。最期を1人で逝かれる事が無いように、職員全員で愛情(尊厳)溢れる看護・ケアを行うと共に、医師と看護師からの詳細な指示(個別マニュアル)を日々実践している。終末期を迎えた時も「(ご本人が)もっと何かしたいことがあったのでは」など、真摯に振り返りをされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会は行っているが、全職員が実践力があるとは言えない		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様の高齢化・重度化も進んでいるが、今回(H28.11.8)実施の訓練の際、地域の方にも参加して頂き、消防署の方にも避難の方法を指導して頂いた	災害時の連絡網に区長に入って頂いた。28年8月は消防署の方から寝たきりの方の毛布を使った避難の仕方を指導して頂き、10月には夜間想定訓練が行われた。災害に備えて食材や飲料水等を常備し、2週間分の栄養補助食品を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	批判的、ぞんざいな言葉使いをしない言葉による虐待の勉強会実施	意思疎通が難しい方も多く、職員は手を握ったり、表情を見ながら優しく声かけし、入居者の意思決定を大切にされている。“ながらの会話”はせず、ご本人の会話に集中するようにしている。個人情報管理も留意しているが、今後も更に勉強していく予定である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを職員が気づき、言い出しやすい雰囲気をつくる		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴など、おおよその時間は決まっているが、一人一人のペースに合わせて対応し、希望があれば対応する		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、出張美容室実施		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	医療食、刻み食、軟飯がいらっしゃる中で、医療食であっても3食の味分けをし、嚥下の悪い方にはトロミ剤を使用、好みの味付けをし提供している	庭の畑で季節の野菜を収穫したり、近所の方から無農薬野菜を頂いている。入居者に献立の要望を伺い、昔ながらの「鶏めし」等も作られ、「美味しい」と喜ばれている。開設者の思いを引き継ぎ、一汁四菜の食事が作られており、体調に応じて高カロリー補助食等も使用している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状によって水分のイン・アウトを計測し、医師と相談して増量の上限を伺って行い、出来るだけ口から摂取してもらうため、嚥下の良いもの、好みのもを提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、月4回訪問歯科による口腔ケアを実施している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴え以外でも声かけを行い、失敗のないように支援している	座位が取れず、おむつとパッドを使用している方もおられる。褥瘡予防に留意し、早めのおむつ交換を行うと共に、パッドの当て方などの勉強会も行っている。トイレに行かれる方もおられ、自尊心に配慮しながら必要な介助を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、水分量・食事量を工夫し(ヨーグルト・牛乳・さつま芋など)、改善できない場合は医師に相談、服薬調整を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外でも失禁の際や希望があれば、いつでも対応するようにしている	体調に応じてベッドで清拭したり、浴室では2人介助をしている。家族が持参して下さるシャンプーを使用しており、面会時に「いつもの母の香り」と喜んで下さっている。ご本人の「自分で洗いたい」と言う思いを大切に、タオルを持って頂き、手を上下に動かすだけでもして頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	発汗や失禁での不快感を取り除く為、早めの清拭・更衣を行い、居室の温度・湿度の管理をこまめに行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬明細書で用法通りの服薬を確認・理解し、変化があった時はかかりつけ医に相談し、指示をもらう		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の行事食や誕生会等を行い、いっしょ会では手足の運動やじゃんけん、新聞の読み上げもし、好みのCDをかけたり、好みのものを提供し、手作りのおやつなども提供している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化し、外出が困難な入居者様が多いが、体調をみながら天気の良い日は庭へ出て外気に触れて頂いたり、リビングへ誘導したり、居室だけの生活にならないよう努めている	終末期の方もおられ、体力的に外出が難しい方も多し。ご本人の体力や体調、意向を大切に支援を続けており、庭の紫陽花等の花見を楽しまれている。公民館の祭り(夕方)に車いすで参加する事ができ、かき氷を楽しまれた方もおられる。家族の希望も大切に、家族と旅行会社の方と以前住んでおられた離島に行かれた方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で金銭管理の出来る方がいない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話が出来る方がいない		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が、自宅で生活するのと同じ空間を提供したいと日頃より考えており、季節の行事に合わせた飾り(しめ飾り、雛人形、七夕飾り、クリスマスツリー)も準備し、季節を感じられるようにしている	玄関には花壇があり、可愛い置物やお花が植えられている。民家改装のホームであり、洗面所やトイレもどこか懐かしい趣きになっている。重度の方が多く暮らされる中、少しの時間でもリビングで過ごせるように努めており、血圧などを丁寧に測定し、座位の姿勢にも配慮し、足置きのためのクッション等も工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車イスでの誘導の方が多いので、リビングで過ごされる時、隣同士にし会話を楽しんで頂いている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人の馴染みの布団・雑貨など持参して頂き、なるべく使い慣れた物の中で生活して頂けるよう支援している	ベッド上で過ごされる方もおられ、目線の先にご主人や家族旅行の写真等を飾られている。職員の手作りも多く、安全のためのベッド柵のカバー等も手作りされている。CD等も持ちこまれ、ご本人がお好きな音楽を流されている。吸引器等の医療機器もあり、掃除を徹底している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	施設内廊下やトイレ・浴室に手摺りを配置している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				